

山口県小学校長会報

発行所
山口県小学校長会
代表者 藤田辰夫
校長会事務局
山口市大手町2-18
☎ 083-925-2919
FAX 083-925-6776
印刷所
大村印刷株式会社

学校経営に求められているもの



山口県小学校長会 副会長 内田 重美

二〇二〇年夏季オリンピック・パラリンピック開催都市が、東京に決まった。「五輪はみんなが一丸となって大きな目的をもつことができる。若者にあの経験をしてほしい。」これは一九六四年の東京五輪で聖火最終ランナーを務めた坂井義則さんの言葉である。

学校をめぐる課題は、多様化・複雑化する傾向にある。学力の向上、いじめ・不登校等の生徒指導上の諸課題、特別支援教育の充実、ICTの活用等、教育課題は急増し、もはや学級担任や各担当者といった個人の力量のみに頼っていることは、課題に十分に対応することとは極めて困難である。今こそ、教職員が一丸となり、同じ目標に向かって「チームで対応する力」が必要である。そこで、組織力の強化と協働のマネジメントについて考えてみたい。

一 組織力の強化

教職員が同じ目標に向かってチーム

力を発揮していくためには、まず、学校経営ビジョンが明確であることが必要である。その際、教職員の自律的職務遂行を期待する観点から、校長のビジョンと教職員個々の目標が連動していることも欠かせない。

現在、目標管理型の教職員評価が進み、自己目標シートをもとにした面談は、組織力の強化につながっている。一方で、管理職と教職員、教職員相互の信頼関係の醸成が重要なポイントであることも忘れてはならない。魅力ある職場づくりを進め、学び合い高まり合う教職員集団となるように努めることが大切である。教職員の力・組織の力を束ね、その力を子どもに向けていく実践力が校長に求められていることを常に自覚することが必要である。

二 協働のマネジメント(学校)

学校としての教育活動のつながりやまとまりによって組織力を強化していく際、要となるのが学校課題の共有と

協働による実践と振り返りである。各場面で教職員の参画と協働をつくり出し、マネジメントすることが、校長には求められる。

教職員の協働によって組織的な教育力の向上をマネジメントしていく方法としては、学校評価や学力学習状況調査結果の分析や改善等が考えられる。大量退職・大量採用の時代を迎えるなかで、学校全体の教育力維持への対応や人材育成の観点から、より実効性のある取組を校長のリーダーシップとマネジメント力によって推進していくなければならない。

三 協働のマネジメント(家庭・地域)

今や学校課題への対応は、学校だけでは困難な状況がある。学校・家庭・地域が子どもを中核に据えて、一丸となって同じ目標に向かって進むことが重要である。山口県では、多くの学校において、地域とともにある学校をめざすコミュニティ・スクール構想が推進されている。学校運営協議会等の意見は、学校の活性化につながり、保護者や地域に開かれた特色ある学校づくりが展開されている。その際、力を発揮しているのが校長のマネジメント力、ネットワーク力である。学校と家庭・地域が双方向に連携し合い、より強い絆で結ばれて、学校から元気を発信できることが楽しみである。

二〇二〇年東京での開催。その時、教育現場は、どんな表情をみせているだろう。子どもの笑顔で満ちていることを願って学校づくりに邁進したい。

全連小報告

第六十五回全国連合小学校長会
研究協議会三重大会に参加して

下関市立室津小学校

水間 浩輔



三重県伊勢市の三重県営サンアリーナをメイン会場に全国から三千人の参加者を得て、十月十七日、十八日の二日間にわたり、全連小三重大会が開催された。

本大会より「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」と大会主題が変わり、活発な話し合いが行われた。

分科会は、第八分科会「リーダー育成」に参加した。学校の中核を担うミドルリーダーを、校長として学校現場において意図的・計画的に育成していくための具体的方策について、小グループで積極的な意見交換がなされた。

シンポジウムでは、津市出身の日本電気宇宙システム事業部の萩野慎二氏をはじめ、三人の夢に向かって挑戦しているお話の内容や「限界を作らず伝説を作れ。」というメッセージに心が熱くなった。

いよいよ再来年は山口市で全国大会が開催される。「維新のふるさと」らしく「進取気鋭の志」をもって研究を進めていかなければという思いを新たにしたい。